

学級活動（１）指導案

1 議題名 みんなであそぼう会をしよう

2 議題について

本学級の児童は、男子〇名、女子〇名、計〇名である。学級全体としては、素直で明るく、友達と関わることが好きな児童が多い。学習では、ペアやグループで話し合うことを進んで行っている。その一方、中には特定の友達としか関わりをもたず、自分の意見を進んで話すことができない児童もおり、もっと学級の人間関係を豊かにしていく必要がある。学級活動（１）で行っている話し合い活動は、年度頭初から基本的に教師主導で進めてきた。夏休み明けからは、児童が議題を提案し、話し合い活動を行っている。これまで、「給食の準備を早くする方法を考えよう。」「前期終了お楽しみ会をひらこう。」「ハロウィンパーティーをしよう。」など、学級をよりよくするための議題や、みんなで楽しく盛り上がりとするための議題が提案された。児童にとって、「自分たちで決めたことを実践することは楽しいことである。」という思いが広がっている。特に、みんなで計画して遊びたいという思いが強く、「今までに行ったような楽しいイベントをまたしたい。」「楽しい思い出を心にも形にも残したい。」という気持ちがある。しかし、話し合いの中では、自分の意見を押し通そうとする児童や、一部の発言力の強い児童に影響を受け、人任せになったり人の意見に流されたりする児童が見られる。また話し合い後、決まったことについて十分に納得ができず、「自分はこうしなかったのにな。」と残念そうにしている児童の様子があるのも現状である。みんなが納得できるよう、折り合いをつけることが課題である。

本議題「みんなであそぼう会をしよう」は、学級の絆をさらに深めるために提案されたものである。休憩時間などで、まだ十分に関わっていない友達もいることから、楽しく遊ぶことで皆が仲良くなり、喧嘩やトラブルを減らし、団結力を高めたいという提案者の願いが込められている。学級目標「みんなにやさしく元気でえがおの 〇年〇組」の達成を目指すためにも、楽しいイベントをすることを通して、さらに友達のことを考えようという気持ちや、学級の雰囲気をも温かくしていこうという意識を高めることができる。話し合いでは、出た意見について、友達の気持ちを考えながら折り合いをつける力を強めたい。指導にあたっては、まず学級全体が提案者の気持ちに寄り添い、分かり合う時間をとる。提案者の「〇年〇組みんなが、今よりもっと仲良くなりたい」という気持ちを考えることで、固定した友達だけでなく、いろいろな友達との関わりを大切にしようという思いが増すと考えている。そして話し合いに向けて、提案者の気持ちから、「みんなが楽しむことができる」をテーマにして話し合うよう伝える。全員が必ず意見を発表できるようにするため、事前に自分の考えをカードに書かせておく。話し合い活動では、意見を「出し合う」「比べ合う」「決定する」場面を視覚的に明確にし、拡散から収束へスムーズに進むようにしていきたい。特に「比べ合う」の段階では、「みんなが楽しむことができる」をテーマに、出た意見のよさや、どんな遊びの工夫ができるかを考えさせる。なかなか決定することができない場合は、必要に応じて、折り合いをつけるいくつかのパターンを示す。『合体する』『時間を決めて順番にする』『これまで行った遊びを振り返りながら、譲り合いをする』などを提案し、みんなが納得できる決定方法を考えさせる。話し合い後は、自分たちで決めた過程を振り返らせ、学級の一員としてがんばるという意欲の向上を図る。また、意見を収束しようと発言した児童を誉めたり、学級全体のよかったところを伝えることで、話し合っただけのよさを感じさせ、今後の話し合い活動の活性化につなげたい。

3 活動のねらい

みんなが楽しむことができる遊びの計画を話合うことを通して、互いに認め合いながら折り合いをつけ、集団決定しようとする意欲を高める。

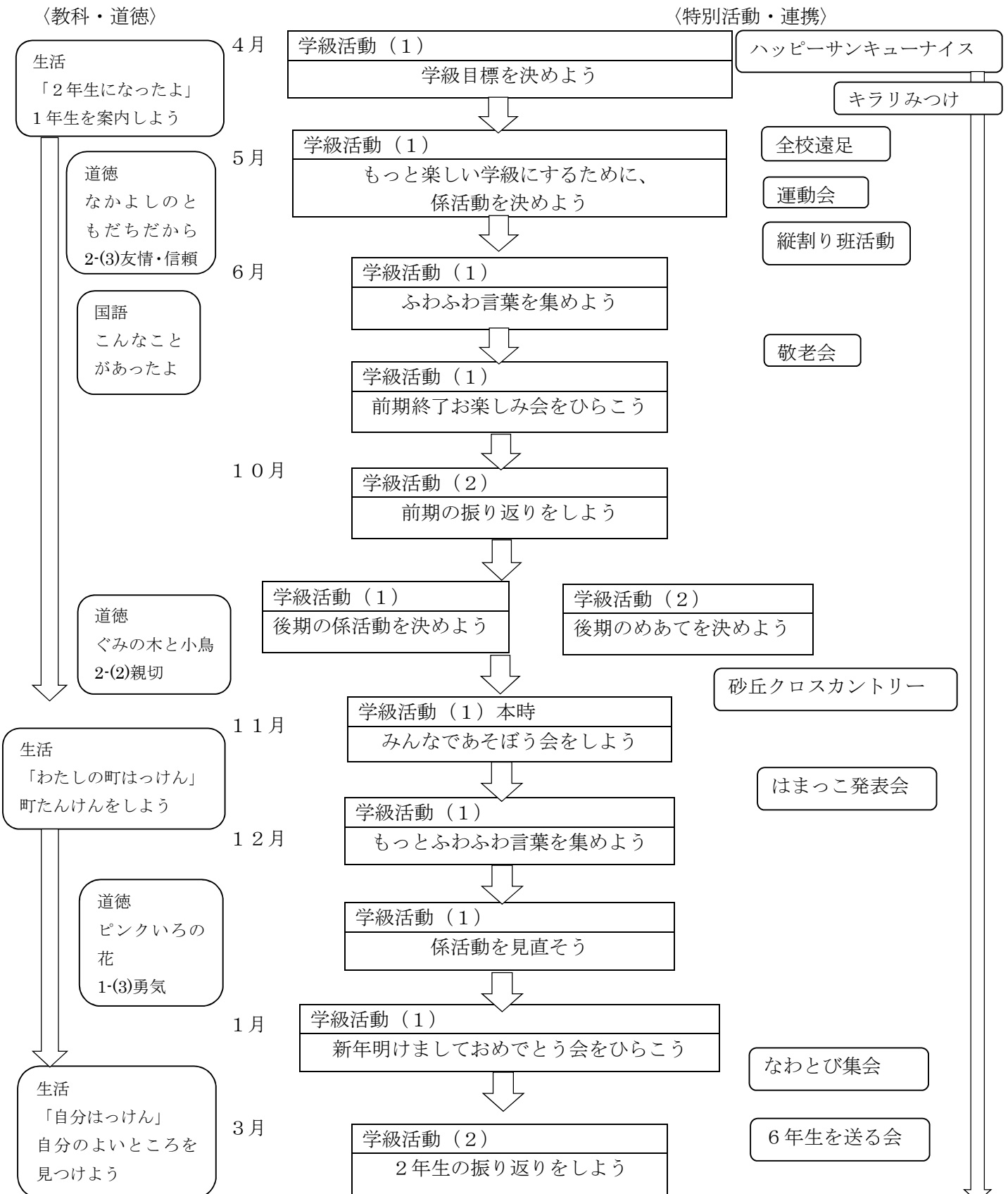
4 活動計画

学年目標

『やすまず やさしく やる気をもって』

学級目標 (通年)

みんなにやさしく元気でえがおの〇年〇組



5 本時の活動

(1) 本時のねらい

「みんなが楽しむことができる」をテーマに、遊びの内容や工夫を考えることを通して、折り合いをつけて決定しようと、友達の見聞を聞いたり、自分の意見を発表したりすることができる。

(2) 本時の評価の観点

観点	本時のめざす子ども像	評価方法
思考・判断・実践	出された意見について、みんなが納得いくよう、折り合いをつけて決定しようとしている。	行動観察

(3) 準備 司会進行手引き、クラス会議カード、提案理由の紙、評価用名簿

(4) 学習過程

議題	みんなであそぼう会をしよう		
提案理由	「みんなにやさしく元気でえがおの〇年〇組」になるために、みんなであそんでなかよくなりたいたいです。そのわけは、まだ、友だちの中で、話したりあそんだりすることがあまり多くない人もいますからです。みんなであそぶともっと楽しくなるし、みんながもっとまとまることができると思って、ていあんしました。		
本時のめあて	自分の意見を一度は発表し、進んで話し合いをしよう。		
話し合いの順序	児童の活動	教師の支援、指導上の留意点 ◎目指す児童の姿【観点】(手法) ※手立て	時間
1 はじめの言葉	・司会が進行する。	・必要に応じて教師が支援する。	2/2
2 話し合いのきまりの確認	・話し合いのきまりをみんなで言う。	・和やかで意見の言いやすい雰囲気をつくるため話し合いのきまりを意識させる。 ①思いついたら、どんどん言う。②人の話はさいごまで聞く。③どんな見も「いいね」の気持ちで聞く。	2/4
3 議題の確認	・司会が議題の確認を行う。	・司会の手引きを見ながら進行できるようにする。	1/5
4 議題設定の理由説明	・提案者が提案理由を説明する。	・何のためにこの話し合いをするのか、しっかりと意識させる。	3/8
5 本時のめあての確認	・司会が本時のめあてを確認する。	・「みんなが楽しむことができる」をテーマに、遊ぶ内容や工夫を考えることを意識させる。	3/11
6 話し合い 【話し合いの柱①】 「あそびをきめよう。」 【話し合いの柱②】 「あそびのくふうを考えよう。」	・順番に意見を言う。 ・意見の発表ごとに反応を示す。 ・出された意見について、話し合う。	・自分の思いをはっきりと伝え、友達の発表に反応しながら聞いている児童を褒める。 ・必要に応じて、出た意見を『合体する』『順番に行う』など、折り合いをつけるパターンを示す。 ◎「みんなが楽しむことができる」ことを意識し、折り合いをつけて決定しようと、友達の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりすることができる。【思・判・実】(発表, 行動観察) ※学級全体のことを考えて発言できるようにするため、学級の実態を振り返らせ助言する。	23/34
7 決定事項の確認	・司会が決まったことを発表する。	・発表後に拍手が出るように声をかける。	3/37
8 振り返り	・クラス会議をした感想を書く。	・友達のよかったところや、自分の気持ちを書かせて発表させる。	5/42
9 先生の話	・教師の話聞く。	・個人名を挙げながら褒めたり、学級全体のよかったところを振り返らせたりする。	2/44
10 おわりの言葉	・司会があいさつをする。		1/45